

Title	癌と人 第7号 目次
Author(s)	
Citation	癌と人. 7
Issue Date	1980-03-01
Text Version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11094/24189">http://hdl.handle.net/11094/24189</a>
DOI	
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 第7号 目次

•ごあいさつ.....	1
理事長 川 勝 傳	
•大阪癌研究会の事業目標.....	2
常任理事 田 口 鐵 男	
1. 肝炎・肝硬変・肝がんの周辺.....	3
倉 堀 知 弘	
2. 大腸・直腸癌の集団検診.....	7
藤 田 昌 英	
3. 婦人の悪性腫瘍について.....	11
早 川 謙 一	
4. 乳がんの検査.....	14
中 野 陽 典	
5. 癌と免疫.....	16
大 嶋 一 徳	
6. 消化器癌の内視鏡検査.....	19
早 田 敏	
7. 癌と化学療法.....	21
太 田 潤	
•財団法人大阪癌研究会寄附行為.....	23
•大阪癌研究会役員・評議員・賛助会員名簿.....	26
•昭和54年度寄附者御芳名・集団検診（乳ガン、 便潜血反応）のお知らせ.....	29



\*表紙絵解説

### 「蟹」のいわれ

蟹の絵は阪大微研の川俣教授にお願いして描いてもらったものである。

癌に関係ある学会のシンボルマークに蟹の図案化したものがよく用いられている。

癌と蟹の関係の歴史は遠くギリシャ時代にさかのぼる。ギリシャの医聖ヒポクラテス著述のところどころに、今日私どもがいう癌と思われる記録がある。ヒポクラテスはそれを「カルキノス」と呼んでいる。カルキノスというのは日常一般に用いられていた言葉で、蟹のことである。ヒポクラテスが記述しているという病気（癌）の格好が蟹に似ていたのでそれと呼び名とした。

今日、欧米では日本でいう癌をカルチノーマと呼んでいる。それはカルキノスという言葉からきたもので、両者は同義語である。

ヒポクラテスはカルキノス（蟹）という日常語を純然たる医学語とした人である。癌と蟹の関係はそれ以来続いている。